

住民と小松海岸を清掃

生光学園中

「みゼロ(530)の日」

の5月30日(日)を控えた25日、徳島市川内町の小松海岸で行われた「530運動in小松」に、同市の生光学園の中学生ら270人が参加した。地域の海岸を美しくし、海水浴客や行業客に気持ちよくすごしてもらうのが運動の目的だ。地域住民らを含む総勢1050人による1時間余りの作業で、ごみのないきれいな浜辺がよみがえった。

530運動は、徳島掃除に学ぶ会と外食企業・ふじや(同市)が社会貢献活動の一環として毎年行っており、今回が8回

530運動に参加

目。参加者は初回の約500人から倍増した。生光学園は、地域をきれいにするという運動の趣旨に賛同して4年前から取り組んでいて、参加者は年々増えている。この日も中学生のほか、幼稚園、小学校、高校の児童・生徒、保護者、教員が駆けつけた。

午前6時半、参加者は数班に分かれて作業を始めた。毎回約10種類ほどのごみが出るため、班ごとに役割分担して効率よく集めているのだそう。

海岸には、流れ着いた大小の流木や空き缶などが散らばり、浜辺の景観を損ねていた。生徒

たちはビニール袋を手配し、拾ったごみの量を競うように集中して取り組んだ。活動終了の8時ま

で、流木のほか、ペットボトルや空き缶、花火のかすなど約8割を回収し、県や徳島市に引き取ってもらった。

主催者で徳島掃除に学ぶ会の代表世話人の鍛谷幸一さんは「地域がきれいになれば心も美しくなる。この運動を通して徳島をさらに美しくしたい」と話していた。3回目の参加となる小学6年生の後藤田裕一郎君(12)は「清掃が終わると海岸がきれいになり、達成感があった。人工的なごみが多かったので、自分も出さないように気を付けたい」と語った。

記者のコメント「今回の体験を通して、正確に伝えることの大切さや難しさを学ぶことができた」

子ども記者に取り組んだ生光学園中学校の有志



清掃に汗を流す生光学園中学校の生徒ら—5月25日、徳島市の小松海岸